

# 上北農業生産情報 第5号

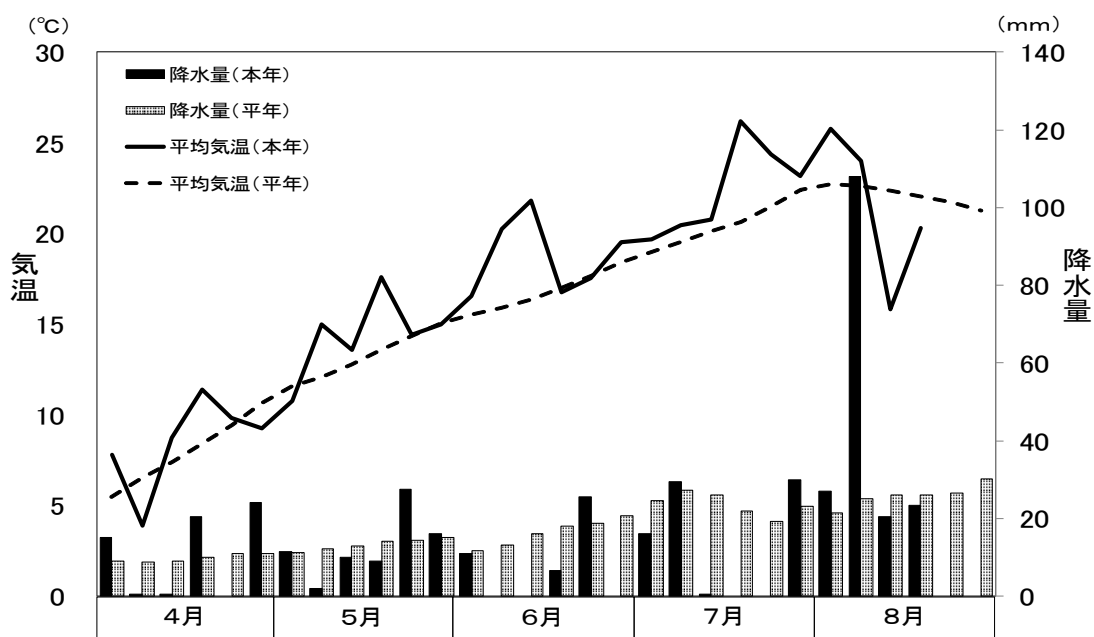
令和3年8月25日  
「攻めの農林水産業」推進上北地方本部

## 秋の農作業安全運動展開中

実施期間：令和3年8月15日～10月31日

- 慣れた作業でも油断せず、安全を確認して、注意しましょう！
- 必ず、作業の合間に十分な休憩を取りましょう！
- 自分は「大丈夫」と過信せず、無理のない作業をしましょう！
- 1人での作業は避け、やむを得ず1人で行う場合は、家族に作業場所を伝え、携帯電話を持ちましょう！
- 家族や周りの人など、地域全体で注意を呼びかけましょう！

## 気象



【半月別平均気温・降水量の推移（十和田アメダス）】

### 【7月】

- ・平均気温は、期間を通して平年を上回った。
- ・日照時間は、上旬は平年を下回り、中・下旬は平年を上回った。
- ・降水量は、期間を通じて平年を下回った。

### 【7月の気象（十和田アメダス）】

項目	平均気温℃		最高気温℃		最低気温℃		日照時間 h		降水量 mm	
	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年
上旬	20.1	19.3	23.8	23.8	17.2	15.5	25.9	43.8	45.5	51.9
中旬	23.5	20.4	29.2	24.8	19.3	16.8	71.2	41.3	0.5	47.9
下旬	23.7	22.0	28.1	26.1	21.2	18.4	57.7	50.9	30.0	42.4

注) 気温は10日間の平均、日照時間と降水量は10日間の合計(下旬は11日間の平均・合計)

## 【8月上旬・中旬】

- ・平均気温は、上旬は平年より2.2℃高く、中旬は平年より4.1℃低かった。
- ・日照時間は、上旬は平年を上回り、中旬は大幅に下回った。
- ・降水量は、上旬は平年を大幅に上回り、中旬は平年を下回った。

### 【8月上旬・中旬の気象（十和田アメダス）】

項目	平均気温℃		最高気温℃		最低気温℃		日照時間 h		降水量 mm	
	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年
上旬	24.9	22.7	29.7	27.3	21.6	19.0	65.0	51.1	135.0	46.5
中旬	18.1	22.2	20.6	26.7	16.0	18.6	14.1	46.3	44.0	52.1

注) 気温は10日間の平均、日照時間と降水量は10日間の合計

## 【8月9～10日の大雨による被害】

- ・台風9号から変わった温帯低気圧の影響により、8月9～10日にかけて大雨となった。
- ・特に七戸町の8月9～10日にかけての雨量（アメダス値）は166.5mmを記録した。このため、七戸町、東北町では、水田への土砂流入や冠水被害が発生した。

## 東北地方 1か月予報（8月21日～9月20日までの天候見通し）

令和3年8月19日 仙台管区气象台 発表

- 天気は数日の周期で変わりますが、平年に比べ曇りや雨の日が多いでしょう。
- 暖かい空気が流れ込みやすい時期があるため、向こう1か月の気温は高いでしょう。
- 前線や湿った空気の影響を受けやすい時期があるため、向こう1か月の日照時間は平年並みか少なく、降水量はほぼ平年並みの見込みです。

## 水 稲

### 《生育状況》

- 1 管内の出穂最盛期（50%出穂）は、平年より8日早い7月30日であった。
- 2 出穂後の開花・登熟は順調に進んでいる。

### 【上北管内の市町村別水稲出穂状況】

市町村	作付面積 (ha)	出 穂			最盛期の 平年差	備 考
		始め	最盛期	終わり		
十和田市	3,590	7月26日	7月29日	8月3日	早8日	[出穂始め] 5%到達日
七戸町	1,790	7月27日	7月30日	8月3日	早8日	
東北町	1,260	7月28日	7月31日	8月4日	早7日	[出穂最盛期] 50%到達日
野辺地町	33	7月29日	8月1日	8月4日	早8日	
横浜町	158	7月31日	8月2日	8月4日	早7日	[出穂終わり] 95%到達日
三沢市	240	7月29日	8月3日	8月5日	早7日	
六戸町	808	7月26日	7月30日	8月3日	早7日	
おらせ町	568	7月27日	8月1日	8月4日	早7日	
六ヶ所村	46	7月28日	8月2日	8月4日	早8日	
管内全体	8,493	7月27日	7月30日	8月4日	早8日	

### 《今後1か月間の主な作業》

#### 1 水管理

落水時期が早すぎると、玄米の肥大が抑えられ、収量や品質・食味の低下を招くので、湿田では出穂後20～25日、乾田では出穂後30～35日を目安に落水する。

## 2 刈取り

- (1) 「まっしぐら」の刈取適期の始め(出穂後の積算気温960℃の到達日)は、出穂期が7月30日のほ場で9月14日頃になると見込まれる。

### 【「まっしぐら」の刈取適期の目安(十和田アメダス：8月25日以降は平年値使用)】

刈取適期	出穂期				
	7月26日	7月28日	7月30日	8月1日	8月3日
適期始め	9月9日	9月11日	9月14日	9月16日	9月19日
適期終わり	9月22日	9月25日	9月28日	9月30日	10月4日

注) 適期始めの目安は出穂後積算気温960℃到達日、適期終わりの目安は出穂後積算気温1,200℃到達日

- (2) 個々のほ場の刈取適期は、出穂の早晚や籾数の多少によって異なるので、籾の黄化程度(ほ場全体の籾の約90%が黄化した時期)や籾水分(25~26%程度まで減少した時期)等から総合的に判断する。
- (3) 本年は出穂後の高温により、刈遅れによる茶米や胴割米の多発が懸念されることから、特に適期内の刈取りに努める。

## 3 乾燥

- (1) 登熟ムラによる高水分籾や未熟な籾の混入が多い場合は、籾水分18%程度で一旦乾燥を中断し、最低5~6時間以上貯留してから仕上げ乾燥を行う二段乾燥など、水分ムラに配慮した乾燥に努める。
- (2) 「良食味・高品質米」生産のため、適正水分15.0%を目標に乾燥する。

## 4 その他留意する点

- (1) 倒伏した場合は可能な限り株起こしを行う。また、冠水したほ場では、可能な場合は動力噴霧機で散水し、稲に付着した泥を洗い流す。
- (2) 刈取りに支障がないよう、刈取り前までに降雨に備えた排水路の整備を行う。
- (3) 早期の倒伏や冠水被害があった場合は品質の低下が懸念されるので、できるだけ別刈り、別乾燥、別出荷する。
- (4) コンバイン等の機械の点検時には必ずエンジンを停止する。ほ場の出入りや傾斜地の走行は慎重に行うなど、農作業事故が起きないように十分注意する。

# 大豆

## 《生育状況》

- 1 生育観測ほの生育は、開花期は平年より7日早い7月28日で、8月10日現在の草丈は平年を上回っている。
- 2 生育が旺盛なほ場が多く、倒伏しているほ場が見られる。
- 3 開花期頃からべと病の発生が見られるほか、ウコンノメイガ等食葉性害虫による食害が散見される。

### 【生育観測ほの生育状況(品種：おおすず)】

調査地	年次	開花期 (月/日)	8月10日現在 草丈(cm)	備考
十和田市切田	本年	7/28	105.6	6/4は種(平年:6/6)
	平年	8/4	81.7	
	前年	8/3	98.0	

注) 平年値は平成13年~令和2年の平均値

## 《今後1か月の主な作業》

### 1 病虫害防除

- (1) マメシクイガの防除は、8月第6半旬～9月第1半旬に1回行う。ただし、連作ほ場の場合は多発する可能性が高いため、8月第5半旬に1回目、その7日後に2回目を散布する。
- (2) 紫斑病は、開花期後20～40日が防除適期であり、8月下旬～9月初めのマメシクイガ防除との同時散布が可能である。
- (3) チオファネートメチル剤(トップジンM)とベノミル剤(ベンレート水和剤)は、紫斑病に対する耐性菌が確認されているので、利用を避けるほか、昨年アゾキシストロビン剤(アミスター20フロアブル)を使用した場合は、紫斑病に対する耐性菌の発生を回避するため、別の薬剤を使用する。

## 小 麦

## 《今後1か月の主な作業》

- 1 は種予定のほ場で雑草が発生している場合は早めに耕起し、雑草をすき込む。
- 2 ほ場の団地化を図り、明きょや弾丸暗きょを施工し、十分な排水対策を行う。
- 3 地力増進のため堆肥を施用するほか、土壌分析を行い、適正pH6.0～6.5となるように苦土石灰等を施用する。
- 4 適期(9月15日～25日)には種できるよう、耕起・砕土などのほ場準備を行う。耕起・砕土は、出芽や苗立ちの確保に関わるので、丁寧に行う。
- 5 雪腐病などの防除のため、薬剤による種子消毒を徹底する。

## ながいも

## 《生育状況》

- 1 生育観測ほの8月10日現在の生育は、いも長46.5cm(平年比129%)、いも重459.3g(平年比345%)、いも径51.4mm(平年比160%)で平年を上回っている。
- 2 一般ほ場でも、新しいもの肥大は順調である。
- 3 葉渋病、ナガイモコガ、アブラムシ類の発生が見られる。

### 【生育観測ほの生育状況(種いも：1年子芽付き)】

調査地	年次	植付日 (月/日)	つるの穂 頂到達日 (月/日)	8月10日現在		
				いも長 (cm)	いも重 (g)	いも径 (mm)
東北町野田頭	本年	5/12	7/ 4	46.5	459.3	51.4
	平年	5/14	7/14	36.0	133.2	32.2
	前年	5/14	7/ 4	29.8	153.7	30.7

注) 平年値は平成20年～令和2年の平均値

## 《今後1か月の主な作業》

- 1 台風等による大雨で穴落ちが発生したほ場は、できるだけ速やかに埋め戻す。
- 2 病虫害防除は、炭そ病、葉渋病、ナガイモコガの防除を中心に計画的に行う。

## 露地ねぎ

### 《生育状況》

- 1 生育観測ほの8月10日現在の生育は、草丈、茎径とも平年を上回っている。
- 2 一般ほ場では、7月中旬から出荷が行われており、肥大・収量は概ね良好である。
- 3 さび病やアザミウマ類の被害が散見されるほか、一部のほ場で軟腐病の発生が見られる。

#### 【生育観測ほの生育状況(品種：夏扇パワー)】

調査地	年次	は種期 (月/日)	定植期 (月/日)	8月10日現在	
				草丈 (cm)	茎径 (mm)
十和田市上羽立	本年	2/ 3	4/12	112.5	27.7
	平年	2/16	4/29	94.6	21.3
	前年	2/ 5	4/28	112.0	25.4

注) 平年値は平成17年～令和2年の平均値

### 《今後1か月間の主な作業》

- 1 明きよの設置等排水対策を徹底する。
- 2 生育の進み具合に合わせ、葉色が淡くなりすぎないように追肥を行う。また、最終培土(収穫予定の15～20日前が基準)は、適期に行う。
- 3 病虫害防除は、さび病、ネギアザミウマ類の防除を中心に計画的に行う。

## ごぼう

### 《生育状況》

- 1 生育観測ほの8月10日現在の生育は、草丈は平年を下回り、葉数は平年を上回っている。  
病虫害では、アブラムシ類の被害が散見される。また、8月9～10日にかけての風雨による葉柄の折れが見られる。
- 2 一般ほ場でも、地上部の生育は例年よりやや劣っている。  
アブラムシ類が多発生しているほ場が多くみられるほか、風雨による葉柄の折れが見られる。

#### 【生育観測ほの生育状況(品種：柳川理想)】

調査地	年次	は種期 (月/日)	8月10日現在	
			草丈 (cm)	葉数 (枚)
三沢市猫又	本年	5/ 1	112.6	3.3
	平年	4/30	120.1	2.9
	前年	4/24	112.3	3.0

注) 平年値は平成23年～令和2年の10か年の平均値

### 《今後1か月間の主な作業》

- 1 強風による葉の傷みが見られたり、降雨が続くことが予想される場合は、黒斑細菌病、黒条病を中心とした防除を行う。
- 2 収穫の際は、根部肥大状況を確認し適期収穫に努める。

## りんご

### 《生育状況》

- 1 生育観測ほの「ふじ」の8月11日現在における果実肥大（横径）は6.3cmで、前年比89%であった。
- 2 黒石市(りんご研究所)における果実肥大（横径）は6.9cmで、平年比103%、前年比97%となっている。

#### 【生育観測ほの生育状況】

調査地	品種	8月11日現在の果実肥大(横径)		
		本年(cm)	前年(cm)	前年比(%)
十和田市米田	ふじ	6.3	7.1	89

### 《今後1か月間の主な作業》

- 1 仕上げ摘果が終了した園地でも、今一度見直し摘果を徹底する。
- 2 早生種は熟期が揃わないので、地色、着色を見て2～3回に分けて収穫する。なお、ストップール液剤の散布後7日間、ヒオモン水溶剤の散布後4日間は収穫できないので注意する。
- 3 モモシンクイガの産卵が続いているので、無袋栽培では8月末までの薬剤散布にはモモシンクイガの防除剤を混用する。

## りんどう

### 《今後1か月間の主な作業》

- 1 ネット上げ  
草丈の伸びに応じてこまめにネットを引き上げ、茎の曲がりを防ぐ。
- 2 病害虫防除
  - (1) 葉枯病や褐斑病、アブラムシ類やアザミウマ類の防除に努める。茎葉が繁茂していると薬液が付着しにくくなるため、丁寧に散布する。
  - (2) ほ場周辺の雑草は、害虫の発生源となるため除草を徹底する。

## 牧草

### 《生育状況》

生育観測ほでは、平年より3日早い7月16日に2番草を収穫し、10a当たり乾物収量は212kgで平年比99%であった。

**【生育観測ほの生育・収量状況(オーチャードグラス主体)】**

調査地	年次	収穫日 (月/日)	草丈 (cm)	乾物収量 (kg/10a)
十和田市大不動	<b>本年</b>	<b>7/16</b>	<b>77.5</b>	<b>212</b>
	平年	7/19	77.8	214
	前年	7/20	95.5	196

注) 平年値は平成23年～令和2年の10か年平均値

**《今後1か月間の主な作業》**

**1 2番草の収穫及び追肥**

2番草を収穫していないほ場は、速やかに収穫するとともに追肥する。

**2 草地の更新**

牧草の収量が減少し、期待生産量が得られなくなった草地は計画的に更新し、生産力の回復に努める。今後は以下の作業を進め、9月中旬までには種を終えるようにする。

**(1) 除草剤散布(8月下旬～9月中旬)**

は種床造成後一定期間放置し、雑草を発芽させ、雑草が十分に出揃ったら非選択性除草剤を散布する。

**(2) は種・施肥・鎮圧(8月下旬～9月中旬)**

除草剤散布後、雑草表面が乾いたら、牧草の施肥とは種を行い鎮圧する。なお、施肥と同日には種できない場合であっても、施肥後できるだけ速やかには種し、丁寧に鎮圧する。

**飼料用とうもろこし**

**《生育状況》**

生育観測ほの雄穂抽出期は平年より5日早い8月1日、絹糸抽出期は4日早い8月4日であった。

**【生育観測ほの生育状況(品種:パイオニア115)】**

調査地	年次	は種期 (月/日)	7月20日現在		雄穂抽出期 (月/日)	絹糸抽出期 (月/日)
			草丈(cm)	葉数(枚)		
東北町北栄	<b>本年</b>	<b>5/14</b>	<b>195.1</b>	<b>14.1</b>	<b>8/1</b>	<b>8/4</b>
	平年	5/22	145.3	13.0	8/6	8/8
	前年	5/18	127.7	13.2	8/9	8/12

注) 平年値は、平成24年を除いた平成22年～令和2年の10か年の平均値

**《今後1か月間の主な作業》**

1 ほ場ごとの刈取適期(黄熟期)を確認しながら、計画的に刈取りを進める。

2 大雨・強風等による倒伏・折損が発生したほ場では、速やかに刈取る。